

【道路橋示方書・同解説(I 共通編)】

【A5判 196頁 本体価格 2,000円】

昭和48年 2月 1日初版 第1刷発行

昭和55年 2月10日改訂版第1刷発行

平成 2年 2月 8日改訂版第1刷発行

平成 6年 2月20日改訂版第1刷発行

平成 8年12月19日改訂版第1刷発行

平成14年 3月 7日改訂版第1刷発行

平成24年 3月26日改訂版第1刷発行

平成29年11月22日改訂版第1刷発行

令和元年10月10日 第5刷発行

目 次

I 共 通 編

1章 総 則	1
1.1 適用の範囲	1
1.2 用語の定義	3
1.2.1 用語の定義	3
1.2.2 字句の意味	7
1.3 設計の基本理念	9
1.4 橋の重要度	11
2 設計供用期間	12
2 調査	13
2 計画	14
1.7.1 架橋位置と形式の選定	14
1.7.2 交差物件との関係	15
2 設計	16
1.8.1 設計の基本方針	16
1.8.2 設計の手法	21
1.8.3 構造設計上の配慮事項	22
1.9 設計図等に記載すべき事項	28
1.10 施工	31
2章 橋の耐荷性能に関する基本事項	33
2 橋の耐荷性能の設計において考慮する状況の区分	33
2 橋の耐荷性能の設計において考慮する橋の状態の区分	35
2 橋の耐荷性能	37
3章 設計状況	41
3 作用の種類	41
3 設計状況の設定	46
3 作用の組合せ	47
4章 橋の限界状態	61
4 橋の限界状態	61

4	上部構造, 下部構造, 上下部接続部の限界状態	63
4	部材等の限界状態	65
4	構造細目	67
5章	橋の耐荷性能の照査	68
5	一般	68
5	照査の方法	70
6章	橋の耐久性能に関する基本的事項と照査	86
6	一般	86
6	耐久性確保の方法と照査	87
7章	橋の使用目的との適合性を満足するために必要なその他検討	90
7	一般	90
8章	作用の特性値	92
8	死荷重	92
8	活荷重	93
8	衝撃の影響	103
8	プレストレスカ	107
9	コンクリートのクリープの影響	111
9	コンクリートの乾燥収縮の影響	114
9	土圧	115
9	水圧	121
8.9	浮力又は揚圧力	125
8.10	温度変化の影響	126
8.11	温度差の影響	128
8.12	雪荷重	130
8.13	地盤変動の影響	131
8.14	支点移動の影響	131
8.15	遠心荷重	132
8.16	制動荷重	132
8.17	風荷重	133
8.18	波圧	144
8.19	地震の影響	145
8.20	衝突荷重	146
8.21	施工時荷重	147
9章	使用材料	148
9.1	鋼材	148
9.2	コンクリート	158
9.2.1	一般	158
9.2.2	コンクリート材料	158
9.2.3	コンクリートの強度	161
9	設計計算に用いる定数	162
10章	上下部接続部	163
10.1	支承部	163

10.1.1	一般	163
10.1.2	支承部の耐荷性能に関する設計	165
10.1.3	支承部に作用する力	165
10.1.4	支承部の限界状態	167
10.1.5	抵抗の特性値	168
10.1.6	支承部の耐荷性能の照査	168
10.1.7	支承と上下部構造の取付部の設計	169
10.1.8	支承の移動量	171
10.1.9	支承部の耐久性能に関する設計	174
10.1.10	支承部の施工	176
10.1.11	メナーゼヒンジ支承	178
10.2	遊間	179
10.3	伸縮装置	179
10.3.1	一般	179
10.3.2	伸縮装置に作用する力	181
10.3.3	設計伸縮量	182
10.3.4	伸縮装置の耐久性能に関する検討	183
10.3.5	伸縮装置の施工	183
10.4	フェールセーフ	183
11章	付属物等	186
11.1	橋梁用防護柵	186
11.1.1	一般	186
11.1.2	橋梁用防護柵が床版部分に与える影響	186
11.2	排水	187
11.3	橋面舗装	189
11.4	点検施設等	190
11.5	付属施設	190
11.6	添架物	191
11.7	その他	192
12章	記録	193
12.1	橋梁台帳	193
12.2	橋歴板	193
12.3	設計・施工に関する事項	194
付録	SI単位系への換算率表	196